

宿存がくの連続着生および着色が優れるホオズキ新品種候補「佐賀5号」および「佐賀6号」					
<p>[要約] ホオズキ「佐賀5号」および「佐賀6号」は、宿存がくの着生率が高く、着色が早い系統である。「佐賀5号」は、特に宿存がくの着生率が高いため切り枝用に、「佐賀6号」は、宿存がくの形が丸実であるため実とり用に向く。</p>					
佐賀県農業試験研究センター・野菜花き部・花き研究担当			連絡先	0952-45-2143 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	花き	専門	育種	対象	ホオズキ

[背景・ねらい]

ホオズキは、県内の様々な地域(大和、唐津、鹿島、武雄、伊万里、神埼など)で栽培されている主要な特産花きのひとつである。これまでに、鉢物用品種として、横方向に広がる特徴的な草姿の「佐賀H1号」および縦方向に伸長する矮性タイプの「佐賀H2号」を育成した。「佐賀H2号」は、宿存がくの連続着生が優れることから、切り枝用または実とり用としての栽培も可能であるものの、宿存がくの着色が遅い。

そこで、切り枝用または実とり用として、宿存がくの連続着生が優れ、かつ、着色が早い品種を育成する。

[成果の内容]

「佐賀5号」および「佐賀6号」は、「佐賀H2号」を種子親、「佐系3号」または「佐系4号」を花粉親とした交雑後代の選抜と自殖を繰り返し、F₅世代で固定完了として、育成された(図1)。特性は以下のとおりである。

1. 宿存がくの着生率は、「佐賀5号」が67.2%であり、連続着生が優れる「佐賀H2号」よりさらに高い。「佐賀6号」も50.8%で、「佐賀H2号」と同程度である(表1)。
2. 宿存がくの着色開始時期は、2系統ともに、6月上旬～中旬であり、「佐賀H2号」より早い(データ略)。
3. 収穫時のa*値が31以上に着色した宿存がく数は、2系統ともに、「佐賀H2号」より多い(図3、図4)。
4. 宿存がくの形は、2系統ともに、「佐賀H2号」より横径が大きく、丸実の傾向にある。特に、縦横比は「佐賀5号」が1.22、「佐賀6号」が1.12で、「佐賀6号」が最も丸実である(表1)。
5. 収穫時の草丈は、2系統ともに、「佐賀H2号」以上を確保できる(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「佐系3号」および「佐系4号」は、宿存がくの形により選抜された系統で、宿存がくの着生は劣るものの着色は早い系統である。
2. 2系統ともに、訪花昆虫を導入せずとも、宿存がくの着生率が高い。
3. 2系統ともに、収穫3週間前のエスレル処理(800倍液の宿存がく散布)により、7月上旬出荷作型にも対応できる。なお、本情報は、エスレル処理を行わない条件下でのデータである。
4. 「佐賀5号」は、初期生育が遅いので、収穫時の草丈確保のため、初期の栽培管理に留意する。
5. 2014年度に品種名を「佐賀H5号」、「佐賀H6号」として品種登録出願を行い、2015年度産は農試の現地実証試験として取り組み、2016年度産から本格的な栽培を開始する計画である。

[具体的なデータ]

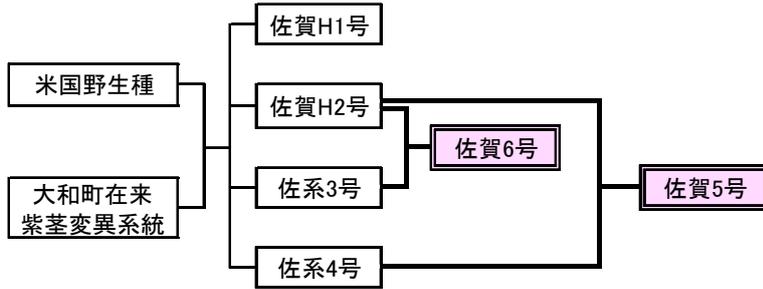
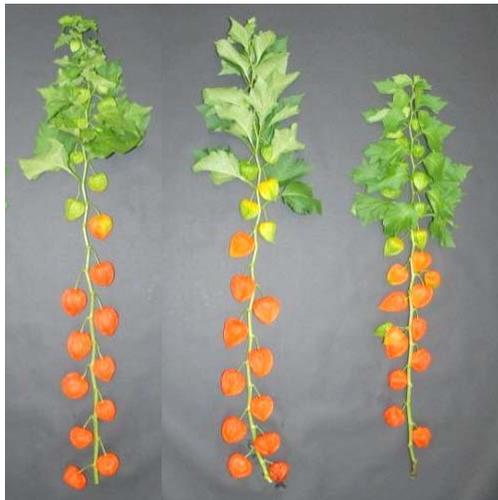


図1 「佐賀5号」および「佐賀6号」の系譜図

表1 「佐賀5号」、「佐賀6号」および基準品種の主な特性(2014)

品種(系統)	草丈 (cm)	全節数	宿存がく					葉		
			着生 節数	着生率 ¹⁾ (%)	縦径 (mm)	横径 (mm)	縦横比	葉身長 (mm)	葉幅 (mm)	縁の鋸葉
佐賀5号	107.3	25.9	17.4	67.2	68.1	55.8	1.22	190.3	160.0	少
佐賀6号	110.5	26.0	13.2	50.8	62.9	56.3	1.12	171.5	136.0	かなり少
佐賀H2号	109.4	26.9	15.3	56.9	67.8	49.1	1.38	180.0	150.0	少
丹波(基準)	130.1	29.5	9.1	30.8	42.1	42.9	0.98	190.5	148.5	中

¹⁾着生率=着生節数/全節数*100



佐賀5号 佐賀6号 佐賀H2号

図2 「佐賀5号」および「佐賀6号」の草姿(2014)

【耕種概要】

- ・2013年度 根茎定植: 3月12日
収穫調査: 7月30日
- ・2014年度 根茎定植: 2月27日
収穫調査: 7月30日
- ・施肥量: 基肥(N P₂O₅ K₂O 各 1.0 kg/a)
追肥(液肥を適宜施用)
- ※訪花昆虫無し、防虫網有りハウス
エスレル無処理

[その他]

研究課題名: シンテッポウユリ等地域特産花き類の新品種育成

地域特産園芸作物の品種開発と育成品種の栽培技術確立

佐賀オリジナルブランドを創出する地域特産花き類の新品種開発

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2014年度

研究担当者: 高取由佳、大藪榮興、千綿龍志、宮崎雄太、松尾洋一、坂本健一郎、松村司

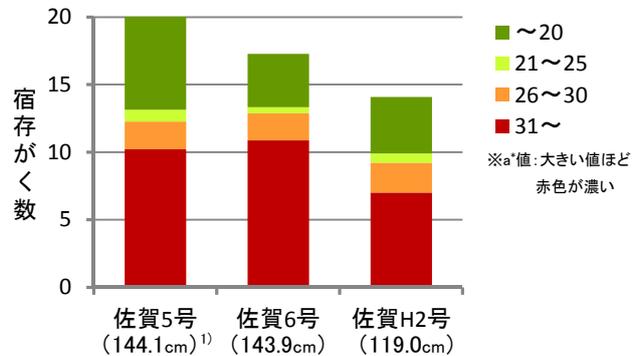


図3 着色程度別の宿存がく着生数(2013)²⁾

¹⁾収穫時の草丈

²⁾栽培適応性検定試験データ

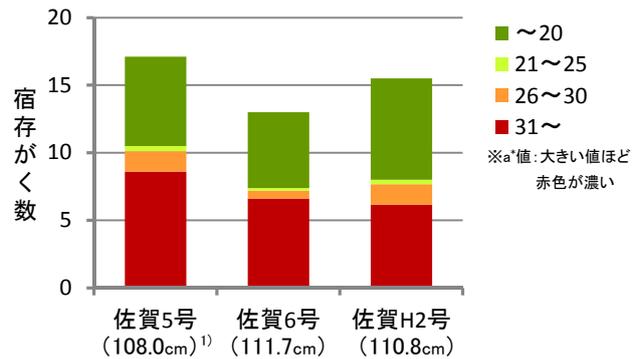


図4 着色程度別の宿存がく着生数(2014)²⁾

¹⁾収穫時の草丈

²⁾栽培適応性検定試験データ